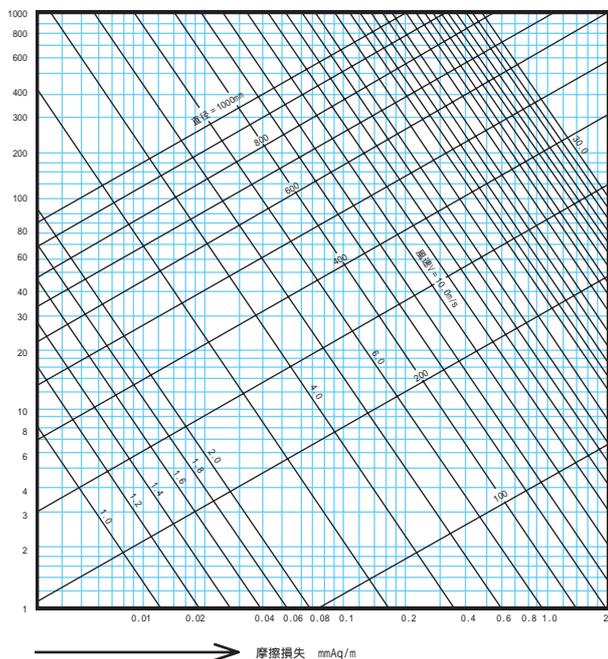




# フレキシブルダクト

# FLEXIBLE DUCT

摩擦損失図表



\*なお詳細は別冊弊社技術資料を参照ください。

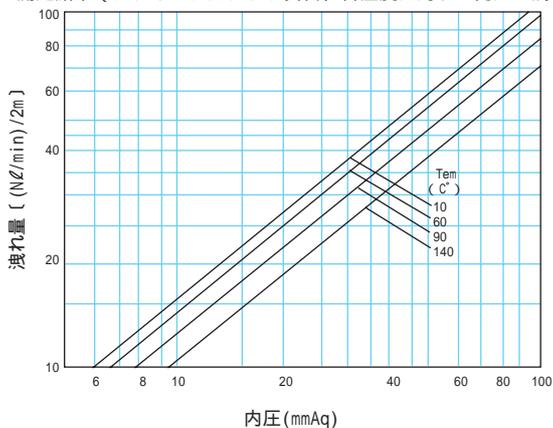
D 100 mm	Vmean (m/s)	6.34	7.63	9.11	9.84	10.70	12.89	13.34
	Q (m³/min)	2.69	3.56	4.25	4.59	4.99	6.01	6.22
	P (mmAq/m)	0.79	1.18	1.69	2.01	2.35	3.59	3.85

D 100 mm	Vmean (m/s)	7.51	9.00	11.69	13.62	15.01
	Q (m³/min)	14.23	17.05	22.14	25.80	28.44
	P (mmAq/m)	0.63	0.90	1.52	2.00	2.71

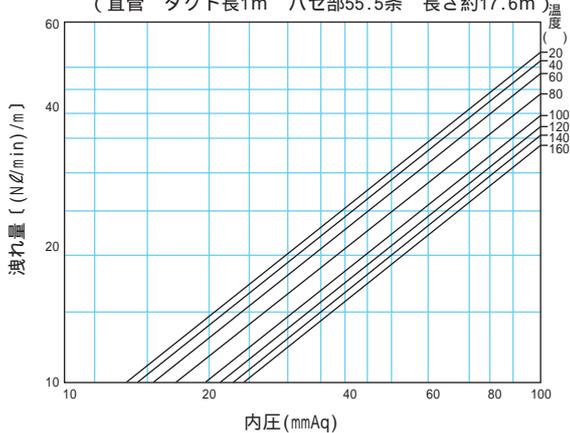
記号: D = ダクト直径 (mm)    Vmean = ダクト内平均風速 (m/s)    Q = 流量 (m³/min)    P = 1mあたりの圧力損失 (mmAq/m)

## アルミフレキシブルダクトの加熱空気漏洩量

測定結果 (フレキシブルダクト真管、各温度に対する内圧・洩れ量)



フレキシブルダクトの洩れ量  
(直管 ダクト長1m ハゼ部55.5条 長さ約17.6m)



左図のように、温度、10、60、90、140 における、内圧と洩れの関係は非常によい直線性を示しています。

温度が上昇すると、同じ内圧に対して洩れ量は少なくなっていくが、ハゼ部のすき間が温度上昇によるアルミの膨張でせまくなっていくことを示している。

フレキシブルダクトはどのような伸ばし方で使用するかによって洩れ量は異なってくる。

テストピースの長さは2m、ハゼ部は111条あり、ハゼ部長さは、約35.28mである。

これらのことを考慮し、温度20 ~ 160 まで20 おきに变化させた場合左図のようになる。

但しフレキシブルダクトは、ダクト長1mに対して、ハゼ部55.5条、長さ約17.6mであります。

このテストは、φ100フレキシブルダクトで行ったが、洩れ量は、ハゼ部長さに比例するので径の異なる場合は、ハゼ部長ささえ計算すれば、左図の結果を用いて洩れ量を知ることが出来ます。